

裏磐梯の植生遷移

1888 年の磐梯山の大噴火と山体崩壊が残した荒れ地に豊かで多様な森が成長しています。現在この地を覆っている深い森は、植林と「植生遷移」という植生の自然回復力の賜物です。数十年にわたる植生遷移のプロセスは先駆種の発生から始まります。それらが土壤に栄養分を与え、他の植物の生長を助け、周辺生息地からの動物の移住を促します。先駆種の次は、成長が速く、太陽光を好む低木や高木、そして最後にブナなどの回復力の強い木へと植生が変化していきます。